

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300893		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム総社		
所在地	岡山県津山市総社309		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 8 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気で一入りが安心して過ごせる居心地の良いホームを提供し、残存機能を活かし、生き生きと生活できるよう支援しています。 高台にあり、明るく、木造建築で室内は温かみのある木目調で、ホームの窓からは、四季の移り変わりが感じられます。季節を感じられるよう外のベンチで日光浴をしたり、各季節の花見ドライブにも出かけ、外出の機会をもってます。できる方には、家事を積極的に手伝っていただけるように支援しています。また、体操、歌等を取り入れたレクリエーションを行っています。医療連携を図り、医師の指示のもと体調管理や服薬管理もしっかりと行っています。季節の食材を取り入れた食事は一汁三菜の提供で、ゆったりとした雰囲気の中での食事をしています。また、毎日の入浴は皆様に喜ばれています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人が持つ各施設と連携しながらグループホームの理念に基づき、管理者、全職員が入居者と支え合う生活を大切にしたい運営が行われており、日々の手作りの食事は家庭的な雰囲気を大切にしたい暮らしの日常が窺えます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える場所に貼り、ミーティング時に目を通し、職員全員で共有し、実践に努めている。日々の暮らしの中でその人らしい生活ができるよう話し合い、ケアに対する考えを確認し合っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた解りやすい理念で、職員が日常的にそれらを念頭に置きケアに取り組んでいる様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とはコロナウィルス感染症対策にて、避難訓練や運営推進会議に参加して頂くことができなかったが、日頃の挨拶を大切にしており、お花や野菜を持ってきて下さったり、周辺の草刈りをして下さる。町内清掃に参加している。	地域的に近隣も高齢化する中、事業所自体が地域の一員として共助する関係に取り組んでいます。	事業所と地域が日常的に交流し信頼関係を大切にしながら、事業所が実践を通して積み上げた専門性を地域の人々に、事業所自体が地域の資源として活躍されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等が開催できず、地域の方に来所して頂く機会がなかったが、機会があれば認知症に対する理解を広めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染症対策にて会議が開催できなかったが、行事や状況報告をまとめており、いつでも閲覧して頂けるようにしている。また、ご家族へも配布している。	コロナ禍の感染規制が緩み、行政を交えた運営推進会議が開催でき、普段の生活振りを動画で紹介し、又地域の出来事など情報を交換しながら話し合いを通してホームのサービスの向上に取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から分からないことは市に相談し、運営推進会議等で市からも情報提供をして貰っている。	市町村と事業所は相互情報交換に努め、協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来、「身体拘束をしない」、「玄関の鍵をかけない」とし、職員全体が「拘束しない」ケアに取り組んでいる。定期的に職員と身体拘束等の適正化のための対策を検討したり、介護の仕方を見つめ直している。	「身体的拘束の適正化のための対策検討委員会」では、法人内のそれぞれの事業所が具体的な事例を挙げ、検討し身体拘束をしないケアに努めている様子が窺えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を行い、虐待をしていないかの自己チェックを行ったり、虐待（暴力だけでなく態度や言葉においても）の防止、利用者の尊厳を守るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し、理解を深めるようにしている。今のところ必要とする対象者はおられないが、必要があれば支援に結びつけていくようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項の内容を説明し、理解や了解の上、同意を得ている。質問や疑問があればそれに応じて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ご利用者やご家族との会話の中で意見や要望を聞き、職員間で申し送り、反映するように努めている。	意見箱には意見を入れる人はいません。入居者、家族とも普段の何気ない会話の中から思いや要望を聞き取りながら職員が共有出来るよう申し送りノートなどに記載し反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期的にミーティングを開き、意見を出しあったり検討したり、毎日の申し送りや、それ以外でも話し合い、管理者と法人本部との管理者会議もおこなっている。	入居者の支援に関わる職員意見は、日常的なコミュニケーションでも行われ、管理者は日常的に職員の变化に目を配り、反映するように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望を出来るだけ取り入れた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつなげるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や、ケアマネ等の資格取得を勧め、また、外部の研修があれば、できるだけ参加するようにし、ホーム内勉強会を毎月行い、必要な知識を得るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所やグループホーム協会主催の研修会があれば、参加、交流や質の向上に努めている。職員の相互訪問をしたり、他グループホーム管理者と密に交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時など、ご本人の生活スタイルを把握し、要望や不安などに耳を傾けている。早期に信頼関係を築くことができるように配慮し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のプライバシーに配慮しながら家族の抱えている問題、困っていることに耳を傾け、関わりを持ちながら、サービス提供出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接において本人や家族の意向を情報収集し、「今何が必要でご本人にとってどのように支援したらよいか」を考えてサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来る事をして頂き、生活に「張りややりがい」がもてるように配慮している（掃除やシーツ替え、洗濯たたみ、台拭きなど、主婦としての働きを学び、かなり職員が助けて貰っている）。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの利用者の様子や行事等を手紙でお知らせし、ご家族との絆を大切にしている。面会が可能な時は感染防止対策に配慮している。面会制限時は日頃の様子を写真で伝えたり、電話で話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策にて、面会制限の時期もあるが、利用者の馴染みの方が気軽に面会に来ていただけるよう支援している。	コロナ禍でも面会は玄関ガラス越し電話器を通し、会話が出来るなどの工夫を凝らし対応しています。入居者が家族に送る年賀状を書く手助けをしたりまた、ご家族から返事を貰える工夫をして馴染みの人や場の関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、皆様が出来ることを選んで、それぞれ笑顔が出るよう配慮している。その中でごく自然に利用者同士が、支え合い関わり合うようになってきている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設に移られた方は、近況を尋ねている。 退居されたご家族がお野菜を作り、持ってきて下さったり、ボランティアの問い合わせを頂いている。 また、連絡をくださる方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活を大切にして、本人の気持ちや思いを聞き、添えるように心がけている。また、出来るだけ自己決定できるよう声掛けなど配慮している。	入居者が自己決定しやすいよう二者択一で話しかけたり、答えやすいよう問いかけの仕方を変えるなどの工夫をし、その時々表情を見ながら思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時生活歴や、馴染みの暮らし方等を尋ね、把握するよう努めている。ご家族の面会時に聞いたこと、ご本人との会話で知りうることなど職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々の行動や状況を記録し、日々共に生活する中で、気づきや、出来ること、出来ないこと、好み等を見極め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どんなことを支援をすれば、ご本人がよりよく生活できるか？ 職員で話し合い、介護計画を作成している。また、面会時や電話・手紙等で、ご家族の希望を聞き、生かしている。	職員の日々の気づきなどを気軽に書くようにしアイデアを反映させ、時には医療関係者の意見を聞きながら現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、一人ひとりの様子などを記録し、必要があれば話し合いをして対処している。申し送りノートを作成し、職員で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況の変化があれば、その都度ご家族の希望や要望に応じて対応するよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染症対策のため、園児のホーム内への受け入れが出来ていないが、玄関先での交流や、ホーム前を散歩等で通った時には、手を振ったり、声をかけている。また卒園児に向けてメッセージを書き、お祝いをし、交流は絶やさずにいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的にご家族が対応しているが、コロナウィルス感染症の発生状況に応じてホーム対応も行っている。必要に応じて歯科医の往診がある。また主治医の往診が月2回あり、急な時は夜間や日・祝日でも適切な指示をもらっている。	入居者が通院受診される際には、ホームでの状態や気付きを家族に伝え、医療機関に対しては前もって情報提供をし、適切な医療を受けられるよう取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本部雇用の看護師が週1回訪問し個々の精神面や体調面についての報告を行い対応について相談し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、ホームでの様子を介護添書で、退院時は病院から看護添書により、相互に連絡を取っている。また入院中は電話連絡で様子をお聞きし、退院時には状況把握が出来るようにしている。可能であれば、退院時にカンファレンスをして頂いてる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援は、今の体制では難しく、看取りは考えていない(関連母体の特養等の連携があるため、入居時家族の希望を聞き、出来ること、出来ないこと等話している)。	ホームでは、関連施設で行われる合同行事に入居者も参加し、普段より交流しながら情報交換を行い、入居者の状態に合わせて関連施設と連携した終末期の支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員がすぐ目を通せるようにしている。また、ホーム内勉強会で緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウィルス感染防止対策で外部の参加は中止しているが、昼夜を想定し、避難訓練を実施している。近隣施設(椿寿荘、保育園、国府の里等)とは、協力関係が出来ている。	年2回、地震・火災を想定して消防設備会社が立ち会いの上、また、地域の元消防団員の助言のもと避難訓練に活かしています。また、災害時の備蓄も2カ所で行い、消費期限の管理も全職員で出来るよう工夫している様子が窺えます。	ハザードマップ的に問題になることがない地域ですが昨今、想定外の災害が多く、これからも地域住民や近隣施設との協力体制を持続・強化して行かれることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、私たちの先輩であり、利用者の生きて来られた人生を尊重し、日常生活の中で誇りやプライバシー損ねない言葉かけや対応に努めている。	馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう、呼び方などは本人の意向に添った形で接しています。生活上、さまざまな場面でプライバシーに関わる事柄があり、その都度対応するよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が希望を表したり、自己決定が出来るよう選択できる声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、それぞれが自分のペースを保ちながら生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた基礎化粧品を使用されている方もおられ、身支度を一人で出来ない方は手助けしている。また感染防止対策に努め、訪問理容を利用し、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にとって、食事はとても楽しみで、毎回「うわー！ご馳走！」「おいしかった！」と言う声に励まされ、美味しい食事を作るよう心がけている。コロナウィルス感染症対策で職員は共に食事はできないが、配慮しながら、楽しく食事出来るよう支援している。	季節の食材で、入居者は食事の仕度を傍で見て(時には手伝い)食事が出来るまでの匂いを嗅ぎながら「今日のメニューは何か？」と想像し、一人ひとりの嚥下状態にあった食事形体で楽しんでいる様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握し、食事量、水分量等を記録し、健康管理に役立てている。調理もその人にあった方法で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕声掛けし個々の力や必要に応じて介助を行い、歯磨きを習慣にして頂いている。夜は毎日うがい液でうがいをし、義歯をポリデントで殺菌消毒して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにより、声掛け、誘導など介助し、後始末など出来ないところを介助している(排泄記録を付けることにより、一人ひとりの状態を把握している)。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を緻密に観察することでトイレでの排泄に努め、おむつやパットに頼らない支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によって問題行動を引き起こすことも考えられるので、水分補給に配慮している。また、野菜など、繊維質の多い物や乳製品の摂取も心がけている。また必要に応じてオリゴ糖を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴をととても楽しみにされている方もありバイタルチェックにより、可能な限り毎日入浴して頂いている。時に入浴を拒否される方も居られるが、無理強いせず、気持ちを大切にしている。	入居者も職員も毎日入浴が当たり前になっているので、個人的な会話を楽しんだり、健康状態の観察をしたりと入浴を楽しむことが出来る支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は今までの習慣から寝る時間がだいたい決まっており、希望により安眠灯等で明かり調節したり、季節に応じた室温を心がけている。昼間も自由に休息しておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、医療対応業務記録簿に記入して共有を図り、誤薬の無いようにしている。また、服薬ファイルを綴じており、職員全体が内容を把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、ご家族の話などからできる事、本人が楽しみにしていること好きなことをして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、外部のイベントに参加できない分、ホームで出来ることを色々と計画し、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場へのドライブや、ホーム周辺の散歩に出掛けている。なかなか外出できない方には、玄関先で日光浴をしたり、歌を歌ったりして戸外の空気に触れるようにしている。感染予防のため、家族や地域の人々からの協力は控えていただいている。	コロナ禍でも四季折々の彩りを感じて、五感を刺激するためにできる限りの外出支援、日光浴などに努めている様子が窺えます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、かえって混乱を招く方もおられたり、ほとんどの方がお金の管理が困難なためご家族に書面にて了解を得て、ホームで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話は希望がなくても、こちらから声掛けし、ご本人に取り次いでいる。年賀状や、はがきの返事を書いて送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、写真を飾ったり、ご利用者の作った物を飾り、会話を引き出し、居心地良く過ごせるように配慮している。	共用空間は安全に配慮され、混乱を招かないよう表示され、食堂から居間への移動の困難な人などは様子を見ながら歩行の安全に配慮するよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで気のあった方とTVや会話などをして自由にすごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人によっては使用していた馴染みの物を持ち込み自分の居場所となっている。また写真を飾ったり自分の製作物を飾っている方もおられる。	消防の教示を受けながら調度品を配置するなど、安全に本人が居心地良く過ごせるよう入居者に合わせた居室への支援が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置により、安全に歩行できるように配慮している。また、トイレなど、昼夜小さな明かりをつけたり、大きく表示し場所が判るようにして見守りをしている。		